

●3月17日（金）

≪本日のプログラム≫

- ・GEMプログラム（学生リーダーとのディスカッションプログラム）
- ・ハーバード大学訪問（学生らによるキャンパス内ガイドツアー&懇談会/COOPでのショッピング）

曇り空ながら朝の気温は穏やか、3月中旬のボストンでは珍しく日中では10度近くにまであがり過ごしやすくなりました。すでに多くの生徒はホームステイを楽しんでいる様子がうかがえ、また通学や街を歩く姿にも自信がつかってきたようです。しかしながら、やはりここはアメリカ、公共交通機関全般において時刻表どおりには運行していない（※ボストン地下鉄は、時間帯によって「●分おき運行」、との情報のみ）ことは言うまでもなく、よって常にある程度の遅れを想定し、早めの行動を心がけています。駅での停車時間や各駅間の運行速度すら日によってまちまち（理由はあるのでしょうが・・・）、本日は多くの生徒が利用する「レッドライン（市内～市街を南北に結ぶ線の一つ）」の遅れから3分の1ほどが集合時間には遅れたものの、午前のプログラム開始時点（9時）までには皆元気な顔と声でコーディネーターに名前を伝えてくれました。

本日午前は、学生リーダーとの英語によるディスカッションベース・プログラム（GEM: Global Empowerment Mindset）が実施されました。本プログラムは、当初全3回（各回＝約3時間）で仕上げるプランでしたが、先日の航空機欠航による大幅なスケジュール調整により、対面での機会設定は本日のみとなります。「対面での・・・」と記載したのは、本来3回目のセッションは「成果発表（プレゼンテーション）」を予定していましたが、この発表を帰国後にオンラインで実施してはどうか・・・との計画を検討しているためです。実現への諸課題はありますが、本研修の学びを帰国後につなげる意味でも実現できるよう努めていきます。尚、くわえて当初スケジュールの「初日」に予定しておりました『現地高校訪問』が、幸いにも週明け月曜日に再設定（しかも予定通りの時間枠にて）できることとなり、これを優先した経緯もあります。

さて、すでに本プログラムのコーディネーターとしてもグループをまとめてくれている「Catherineさん」の力強いリード（※今回はファシリテーターとして）のもと、同様にすでにこの二日間で生徒との関係を深めている学生リーダーとのチームワークにより、GEMセッションがスタート。「Design Thinking」という概念、思考方法を理解し、そしてさらには帰国後も個々の「探究学習」深耕への展開、活用ができることを目的にセッションは進められました。具体的には、「共感（ニーズの掘起し）⇒問題定義（課題の本質を定義）⇒課題解決のアイデア⇒プロトタイプ（アイデアをまずかたちに）⇒Test（プロトタイプ試験）」のサイクルを模擬的に進め、そのフローと意義の理解をはかる狙いです。SDGs 目標#11「住み続けられる街づくり」に焦点を当て、各グループ間でのディスカッション、問題抽出からアイデア共有&まとめ、最後はグループとしてのソリューション提案（発表）まで行いました。賞味2時間半程度でアイデアを詰めるには難易度高い作業ではありましたが、常に感心させられる学生リーダーの献身的、熱心、そして明確なリードのおかげで、各グループともに独自性のある面白い発表になったものと感じます。

ハーバード大学のある駅周辺（通称「ハーバードスクエア」）にて、学生リーダーと昼食を楽しんだのち、午後のプログラムがスタートしました。ハーバード大学で学ぶ現役学生との懇談、そしてガイドツアーです。日本人学生（大学院）を含む4名の学生から、リベラルアーツ教育の意義や特徴とともに同大学の教育システムについての説明、個々の専攻・専門分野から同大学を選んだ理由、高校生である生徒へのアドバイス（質問にこたえるかたちで）など、実際の講義室を使わせていただき丁寧に対応をいただきました。当然今回も終始英語による説明でしたが、多くの生徒からも質問（英語で）の挙手が続き、短時間ながら貴重な経験、有意義な時間となったでしょう。「自分の興味関心を大切に。そして追求しては

しい]「Make Friends=単に“友達”をつくるという意のみならず、つながりを広めることでの学びや視野拡大、新たな価値観や考えを受け入れることの大切さ」、特に後者については圧倒的な多様性のなかで個の力と独自性が求められる同大学、世界で挑戦する方々からの提言として深い意味を感じました。そして「“Open the Opportunity!”」、自分の可能性を大事にしてほしい、自ら動き出そう、とやさしくなげかけてくれたことばはとても大きなメッセージ（若い世代への期待）を感じます。その後、1時間ほど彼らとのキャンパスツアー（4グループに分かれて）を楽しみ、大学 COOP（いわゆる学生生協）にてしっかりと資金提供をしたのちに、本日のプログラムを終了しました。

以上、現地3日目の報告といたします。





